

## 〔序 章〕

## 創価大学の歴史と理念

## 1. 創価大学創立の淵源

創価大学は、1971（昭和46）年、創価学会第3代会長（現在・名誉会長）の池田大作先生によって創立された。しかし、創価大学創立の構想は、初代会長の牧口常三郎先生に遡る。

牧口先生は1871（明治4）年、新潟県で誕生した。1893（明治26）年に北海道師範学校を卒業後、同校の教諭を務めた。その傍ら、自らの教育法についての研究に勤しみ、「単級教授の研究」などの論文を発表している。また、専門教科である地理学の研究にも取り組んでおり、その成果が『人生地理学』の上梓へと結実していった。この『人生地理学』の発刊のため牧口先生は北海道での教職を辞し、上京した。しかしながら、地理学の研究者としての道だけを探求するのではなく、教育現場での業務にも取り組んでいった。その歳月、約20年。この間、白金尋常小学校など6つの学校の校長を歴任することとなる。

教育現場で様々な経験を身につけていくなかで牧口先生は、独自の教育学の理念にたどり着き、1930（昭和5）年に『創価教育学体系』第1巻としてまとめ、世に問うたのである。牧口先生は、この書の「第1編 第1章」の冒頭で次のように書き記した。

「創価教育学とは人生の目的たる価値を創造し得る人材を養成する方法の知識体系を意味する。

人間には物質を創造する力はない。吾々が創造し得るものは価値のみである。所謂価値ある人格とは価値創造力の豊かなるものを意味する。この人格を高めんとするのが教育の目的で、此の目的を達成する適当な手段を闡明（せんめい）せんとするのが創価教育学の期する所である」

すなわち「創価教育」の「創価」とはまさに「価値の創造」の意味なのである。牧口先生はこの教育理念の理解と深化、そしてその普及を図るべく「創価教育学会」を設立した。若き教員たちと共に、自らの教育理論の深化を図るべく、研究に勤しんだのであった。その運動は精力的なものであり、徐々に教育運動に展開していく。また、その根底に宗教が欠かせないという信念から、それらの運動は宗教運動へと発展していったのである。

以上のように、創価大学の「創価」という名称はこの牧口先生による「創価教育学」に源がある。

さて、牧口先生を中心とした創価教育学会の諸活動が広範に展開されるに従って、当時

の軍部は、「治安維持法違反」と「不敬罪」の容疑で牧口先生を検挙した。1943（昭和18）年7月のことである。牧口先生は、自らの信念を揺るがすことなく獄中生活を続けていったのであるが、逮捕の翌年、1944（昭和19）年11月18日に牢獄で逝去した。

牧口先生のこうした創価教育の理念を受け継いだのが、戸田城聖先生である。戸田先生は1900（明治33）年に誕生した。北海道で教員生活を送った後に上京。牧口先生に師事して、「創価教育学会」の創立に尽力した。自らも「時習学館」という私塾で教鞭をとりつつ、牧口先生を支えて教育改革、宗教改革に取り組んだ。当時の受験参考書の中でも、特に評判になった『推理式指導算術』は昭和5年に初版が発行されて以来、昭和16年に至るまで、126版を重ねたものであった。戦時中は、「創価教育学会」の中心的存在であったため、牧口先生とともに逮捕・投獄され、2年余りの獄中生活を送ったのである。

戸田先生は、第二次世界大戦終了直前に出獄。そして、終戦後すぐに「創価教育学会」を「創価学会」に改称し、活動を再開した。1951（昭和26）年には第2代会長に就任し、創価学会の活動を推進・展開していったのである。戸田先生はこの間、一貫して教育改革を念頭に、牧口先生の創価教育の理念と実践を継承し発展させることに努めた。牧口先生から受け継いだ「創価教育学」を基盤とする創価大学の設立構想も変わることなく醸成させていったのである。しかしながら戸田先生は、生涯の夢であり師の牧口先生の念願でもあった創価大学創立の日を迎えることなく、1958（昭和33）年4月2日に逝去した。本学の創立記念日もまた4月2日である。

以上のように、牧口先生・戸田先生と2代にわたって継承されてきた創価教育の理念は、池田先生によって受け継がれ、ようやく実現されることとなる。1950（昭和25）年、戸田先生から創価大学設立の意思を託された池田先生は、戸田先生の逝去後1960（昭和35）年に創価学会第3代会長に就任すると、早くもその8年後の1968（昭和43）年、中学校・高等学校を併設する創価学園を創立した。そしてその3年後の1971（昭和46）年、創価大学を創立した。この年は、奇しくも牧口先生の生誕100年とも重なる記念すべき年であった。

創立者は「創価」、すなわち「価値を創造する人間の育成」を目指すという、牧口先生・戸田先生から引き継いだ理念に基づき、三つの「建学の精神」を掲げると共に、学生たちに対し「創造的人間たれ」と呼びかける。「価値」の中心である生命の尊厳は必ず守られなければならない。そして、いかなる困難に遭遇しても価値の創造を持続し、「平和」の実現に向かって挑戦し続けるべきなのである。それこそが「創造的人間」なのだ。ここに、創価大学が開校された目的がある。

## 2. 創価大学の歩みと建学の精神

1971（昭和46）年4月、創価大学は、経済学部経済学科、法学部法律学科、文学部英文学科・社会学科の3学部4学科で出発した。開学の前年には東京大学の入試が中止される

など、大学紛争の最も厳しい時代であったが、創価大学はそれとは一線を画す、新たな大学、「学生第一の大学」を実現することを標榜してスタートしたのである。

文系3学部で発足した本学は、開学6年目の1976（昭和51）年に、経営学部と教育学部を開設。1991（平成3）年には工学部を開設し、現在では6学部を擁するまでに発展してきた。

また、1975（昭和50）年に、経済学研究科経済学専攻、法学研究科法律学専攻、文学研究科英文学専攻・社会学専攻の博士前期課程で出発した大学院は、現在では、博士前期課程と後期課程からなる4研究科と法科大学院からなっている。

一方、1976（昭和51）年には、通信教育課程を経済学部・法学部に設置（後に教育学部にも設置）し、時代を先取りした生涯学習を開始した。1975（昭和50）年には留学生受け入れのための別科日本語研修課程（現在は日本語特別課程も設置）を設置し、国際化に向けて大きく前進することになった。

創立者は、本学の開学以前においても、教育・文化・平和活動を展開していた。1962（昭和37年）には、「仏教のすぐれた思想・哲学の研究」を行うため、財団法人東洋哲学研究所を設立、翌1963（昭和38）年には、「民衆を主体とした多角的な音楽文化活動」を目指し、財団法人民主音楽協会を設立した。さらに、1968（昭和43）年には東京・小平市に中学高校一貫教育校である「東京創価学園」を創立した。この「創価学園」の開設が、牧口先生・戸田先生から受け継いだ創価教育実践のスタートだったとあってよい。こうした諸分野における新しい運動の展開の中で、本学は創立を迎えたのであった。

創立者は、開学にあたって三つの「建学の精神」を掲げた。それは、

- 一、 人間教育の最高学府たれ
- 二、 新しき大文化建設の揺籃たれ
- 三、 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

である。

この「建学の精神」は、開学以来、教員・職員そして学生の精神的支柱であり、自らがその実現の主体者であろうと努力を重ねている点に、創価大学の大きな特色がある。

価値を創造して人類へ還元していくこと。そのためには、単なる知識の獲得だけではなく、様々な問題解決のために自在に知恵を発揮することが求められる。豊かな人間性を基盤とすることも欠かせない条件となる。そうした人間を育成しゆく「人間教育の最高学府」でありたい。

そして、人種や民族・文化の差異を理解し、尊重し、それらを乗り越えて連帯しゆくなかで築かれていく地球文化。そしてその文化を支えるのが地球市民であると考えている。この地球市民は、まさに「創造的人間」であり、その揺籃たる役割を果たしていきたい。

さらに、軍事的競争でもなく、経済的競争でもなく、いかに人類に幸福をもたらすかの

競争、すなわち「人道的競争」を担い、世界のあらゆる人々と開かれた対話を展開する平和を守るフォートレスとなること。

創価大学では、この建学の三精神を基に、これらを実現するための教育と、人材の育成に向かって、「学生中心」の大学を標榜して理想的な大学像の実現に努めてきた。

創立者自身も、この建学の精神の実践者として世界各国を訪問し、教育・文化・平和の交流を展開してきた。この間、歴史学者のA・トインビー、美術史家のR・ユイグをはじめ、H・キッシンジャー、M・ゴルバチョフ等々をはじめとする世界の識者と対話を続け、多くの対談集を公刊してきた。また、海外諸大学・学術機関からの要請を受け、これまでに、ハーバード大学（講演テーマ「ソフトパワーの時代と哲学」）、香港中文大学（同「中国的人間主義の伝統」）、ボローニャ大学（同「レオナルドの眼と人類の議会」）、ガンジー記念館（同「不戦世界を目指して」）などにおいて16回の講演を行っている。そうした創立者の実践活動に対して、海外の諸大学・学術機関から名誉博士号、名誉教授などの称号が授与されてきた。2006年には、その数が200を超えるに至っている。

建学の精神に基づく実践。それは教員・職員そして学生が協働して理想を追求する作業でもある。

建学の精神のもとに。これこそが創価大学の一大特色なのである。